

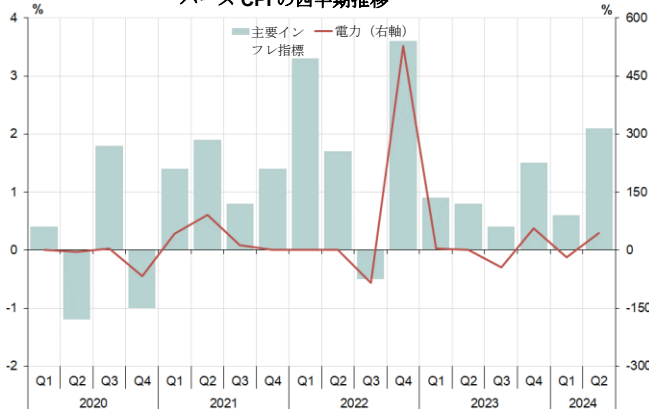
今月の西オーストラリア州関連データハイライト

- 西オーストラリア州は、第2四半期に小売売上高が増加した唯一の州であり、増加率は0.9%だった。
- パースのCPIは第2四半期に2.1%上昇し、年間の消費者物価上昇率は4.6%となった。
- 西オーストラリア州の雇用者数は6月までの1年間で5.0%増、失業率は3.8%であり、オーストラリア全体で最も好調であった。
- コアロジック社によると、パースの7月の住宅価格はさらに2.0%上昇し、全州都の中で最も高い伸びとなった。

パース第2四半期消費者物価指数

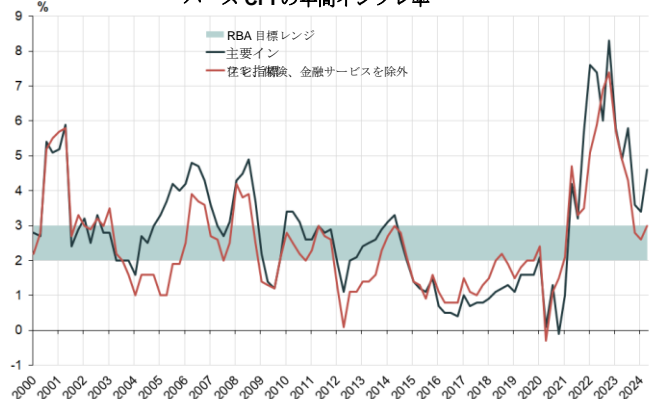
- パースのCPIは2024年第2四半期に2.1%上昇し、年間の消費者物価上昇率は4.6%となった。
- 第2四半期にパースのCPIが上昇した主な原因は、西オーストラリア州の家庭に対する州および連邦のエネルギー料金救済措置が終了したことにより、電気代の自己負担が増加したことである。この結果、第2四半期の電気代は44.1%増加した。これに対し、前四半期には18.1%減少していた。
- オンオフを繰り返す家庭向け電力料金補助の特性は、過去数年間、パースの消費者物価インフレーションが四半期ごとに変動する原因となっている。このように不安定ではあるが、全体として、インフレ率は低下傾向にある。
- 第2四半期に住宅費が6.2%増加した主な原因は、電気代の自己負担額の増加であった。加えて、しかし、持ち家所有者による新築住宅の購入コストは4.9%増加し、家賃はさらに2.8%上昇した。住宅を除けば、パースCPIは前四半期比1.1%、前年同期比3.3%上昇した。
- 住宅以外では、食品とノンアルコール飲料(前四半期比1.6%増、前年同期比3.2%増)が第2四半期の消費者物価上昇に最も大きく寄与し、特に果物と野菜(前四半期比9.5%増、前年同期比6.2%増)の価格が、厳しい生育環境のために上昇した。同四半期、保険料はさらに3.5%上昇し、前年同期比18.1%増となった。
- 住宅、保険、金融サービスを除くパースの年間インフレ率は3.0%に上昇したものの、変動項目を除いたインフレ率の増加は4.5%で、全体のインフレ指標をわずかに下回っている。
- パースCPIの第2四半期の上昇は一時的なもので、これまでの家庭向け電力料金補助の期限切れによる上昇と同様である。西オーストラリア州の最終需要が緩やかになるとの予想による需要圧力の緩和や、州および連邦の新たな電力リベートにより、下半期のインフレ率は低下する見通しである。

パースCPIの四半期推移



出典: ABS

パースCPIの年間インフレ率



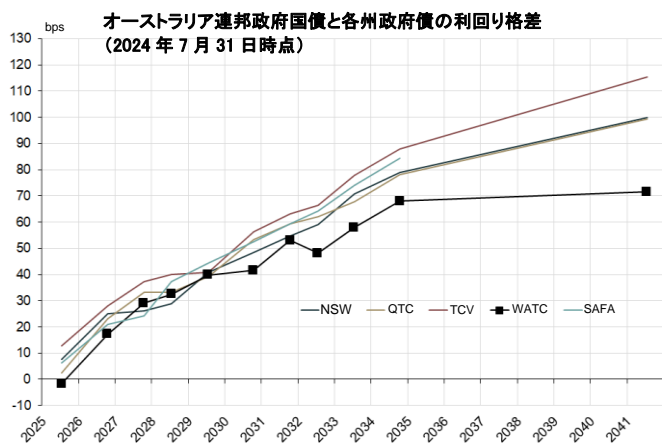
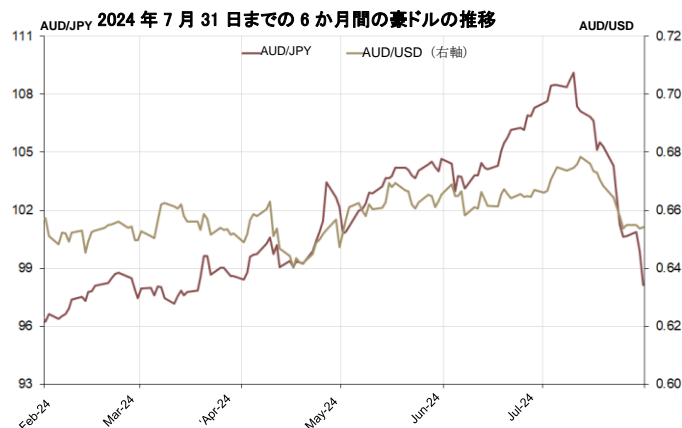
オーストラリア金利 (%)		為替と株価	
RBA 政策金利目標	4.35 (0 pt)	AUD/USD	0.6542 (↓1.9%)
90 日銀行手形	4.49 (↑4 pt)	AUD/JPY	98.12 (↓8.6%)
連邦政府 3 年国債	3.76 (↓32 pt)		
連邦政府 10 年国債	4.12 (↓20 pt)	ASX200	8092 (↑325 pt)

市場概況

- 7 月には、RBA の金融政策決定会合は開催されなかった。
- FF 金利の引き下げに対する期待の高まりと、それに伴う指標米国債利回りの低下を反映して、利回りは 7 月の大半を通じて低下傾向にあった。しかし、RBA が重視する基調的なインフレ指標である豪トリム平均 CPI の予想外の下振れを受けて政策金利見通しが低下したことで、月末には連邦債と WATC の利回りがさらに低下した。
- 豪ドルは 7 月に米ドルと円に対して下落した。下落幅は豪ドル/円の方が顕著に大きく、前月比 8.6% の下落だった。これは、日銀の超緩和的金融政策のさらなる修正が予想される中で円高を主に反映している。今月の豪ドルの下落の一因は、中国経済の見通しに対する継続的な懸念とそれに伴う商品価格の下落によるものであった。
- 豪株式市場は 7 月の世界的な株価上昇の恩恵を受け、また月末の豪 CPI の上昇を受けて 4.2% 高と過去最高値を更新した。

満期	WATC 指標銘柄債券の利回り		AGS スプレッド	
	利回り	2024 年 7 月 31 日	2024 年 7 月 31 日	2024 年 7 月 31 日
2025 年 7 月 23 日	4.20	(↓ 23 pt)	-2 pt	(↓ 2 pt)
2026 年 10 月 21 日	4.05	(↓ 31 pt)	+17 pt	(↓ 1 pt)
2027 年 10 月 21 日	4.03	(↓ 31 pt)	+29 pt	(↑ 2 pt)
2028 年 7 月 20 日	4.08	(↓ 28 pt)	+33 pt	(↑ 3 pt)
2029 年 7 月 24 日	4.18	(↓ 25 pt)	+40 pt	(↑ 4 pt)
2030 年 10 月 22 日	4.33	(↓ 22 pt)	+42 pt	(↑ 2 pt)
2031 年 10 月 22 日	4.47	(↓ 19 pt)	+53 pt	(↑ 3 pt)
2032 年 7 月 21 日	4.54	(↓ 18 pt)	+48 pt	(↓ 2 pt)
2033 年 7 月 20 日*	4.63	(↓ 17 pt)	+58 pt	(↑ 4 pt)
2034 年 10 月 24 日	4.79	(↓ 15 pt)	+68 pt	(↑ 3 pt)
2041 年 7 月 23 日	5.20	(↓ 11 pt)	+71 pt	(↑ 4 pt)

スプレッドは最も近いオーストラリア連邦政府債に対するもの。*グリーンボンド。



この資料に含まれるいかなる見解、判断、結論、予測、予想、見積もりも、西オーストラリア州理財公社に提供され、同公社が信頼できると確信している情報に依拠して作成されたものです。しかし、同公社はそうした情報の正確性を保証するものではありません。したがって、すべての推奨事項は誠実に実行されますが、お客様の決定を支援するためにのみ提供されます。これらの推奨事項は、特定事案に対する専門的な助言に代わるものとするを意図したものではありません。推奨事項の採否を判断する前に、各々の特定のニーズや状況について西オーストラリア州理財公社とご検討いただくことを強くお勧めします。